

年八月、今出川殿夫人産の處に見えたり、吉をえとよむ事、假名書の誤なり、住吉をすみのえ、日吉をひえと讀におなじ、賢按、此説非也、惠は十幹の惠の方なり、然共兄の字なるべし、きのえかのえのえ也、

〔明月記〕寛喜三年正月九日、午時計、乘車行賢寂之宅、依生氣方、今年初出行、見孫子之小女歸、

〔雲州消息〕言上、右年花始換之後、起居萬福歟、中生氣方、今年當免先參貴殿、相共可詠萬歲、

千秋之句也、其後參處々耳、中不宣謹言、

正月元元本作一、日

左近衛中將

謹上春宮亮殿

請恩章事

右新春御慶賀、中抑生氣之方當免給之條、喜中之喜也、以吉日良辰之期、必排蓬門、可待光臨也、萬

歲千秋之句、尤所庶幾也、才子兩三輩、可相招待、謹言、

乃時

春宮亮

〔雲州消息〕年首尋生氣方、供燈明者例也、今年吉方幸當法輪寺、貴下已同甲子、相共可被參詣歟、中

略謹言、

正月日

大藏少輔

兵庫頭殿

〔折たく柴の記〕此年正徳もすでに暮れて、十二月晦日の夜、半ばかりに、忠良朝臣の家より火

發して、延焼の家ども多く、註明れば丙申の春正月元日の巳時の終まで、火消る事もなし、火消

しぬべきよそほひせしものども、忍ぼうしひた、れせし人と行かふさま、けしかる事共なり、け

り、